

〔運歩色葉集見〕耳梨山

〔和漢三才圖會大和七十三〕十市郡

耳梨山 在八木村之東俗云、天神山、又名耳高山、或云青苔山、

推古天皇有行幸立離宮、

登山踏地、則有響音、如中虛耳梨、畝傍、香久山、各如鼎、

〔和州巡覽記〕耳無山 名所也、俗には天神山と云、八木の町より五町許東に在、天香山の北也、此邊

に鬢兒の池有、万葉十六卷に歌有、八木よりうねび山、久米の方にゆく、又此道に歸て、安部飛鳥の邊を通りて、吉野の方に行はまはりなれ共、名所古説を多く見んため也、此大道は耳無山の南に

在、此道は八木より櫻井へゆき、長谷へ通る路也、横大路と云、姿の池も、耳無山のかたはらに在と

云、

〔大和名所圖會〕耳成山成あるひは梨、無等に作る、木原村上方にあり、四面田野にして、孤峯森然たり、山中に梔樹多し、因て又梔子山とよぶ、

後撰集 うだの野は耳なし山か喚子鳥よぶ聲にだに谷へさがらん讀人しらす

同返し 耳なしの山ならずともよぶ子鳥なにかはきかん時ならぬ音を女王のみこ

懷中抄 あだ人は耳無山の紅葉かなまててふとしをきかでちりぬるよみ人しらす

梔子山一名なし山の

歌枕名寄 大和なるくちなし山の山賤はいわでぞおもふ心ひとつによみ人しらす

〔和漢三才圖會大和七十三〕高市郡

畝傍山俗云慈明寺山 在八木村之南一里

〔古事記傳十九〕畝火は、大和國高市郡にある山、名なり、此下なる大后の御歌に、宇泥備夜麻と見え、

書紀欽明卷、歌にも見え、允恭卷に新羅客が、此山を愛て宇泥畔巴擲と云ること、又推古卷に畝傍、